

# スイ スイ スイト ツ ツ ツ



1986年  
 モントリオール国際映画祭審査員特別賞  
 1987年  
 シヤムルツ国際ユーモア映画祭グランプリ  
 アカデミー外国語映画賞ノミネート  
**イジー・メンツェル監督作品**

人も自然もスイートな春の気分のチェコの村  
 小さな事故から大事件——  
**笑いだしたら止まらない**  
 アカデミー賞受賞の名匠メンツェルの  
 愛と叙情の日本初登場作品!!

*Vesničko má středisková*

■☆☆☆こんな映画はあつたにない、まったく新しい映画だ。  
 アメリカ(ニューヨークポスト・サービス)(ウイリアム・ウォルフ)



■生きるよろこびにあふれている、一瞬一瞬が微笑んでいる映画。  
 はじめから終りまで面白い、小さな本物の宝ものだ。  
 アメリカ(ニューヨークポスト・紙)(ロジャー・エバート)



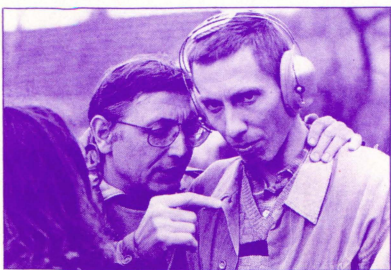
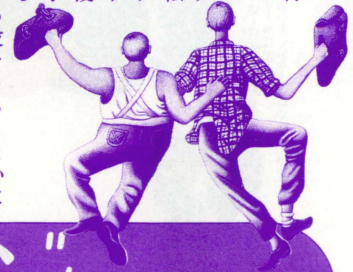
■小さな村の小さな出来事から思いもかけぬ世界的な心の響きが生まれたスイートな映画。  
 フランス(スチエヂオ誌)(ウニバラン) ■(チェコ事件)から  
 出現した最高傑作。(アントニン・J・リーム)



監督イジー・メンツェル/脚本ズデネク・スヴェラーク/撮影ヤロミール・ルショウ/音楽ズビエク・フロフ  
 音楽イジー・シュスト/製作ヤン・シュステル/カラーチェコ映画  
 ヤーノシュ・バーン/マリアン・ラバダ/トルドス・フルシンスキー/リフシェ・シャフランコヴァー  
 傑作を世界からこぶ  
 パワースタッフ  
 BOW フランス映画社配給

■知る人ぞ知るチェコの名監督メンツェルの、待望の日本初登場。

登場人物の中心はのっぽでとんまな青年オチクと、でぶで働きの運転手バヴェク。舞台はプラハの南の小さなスイートな村。個性ゆたかな名優ぞろい、笑い、笑い、小気味よいテンポで増幅しつつ、自然と人間に対する愛をさりりと心に残すメンツェル独特の作風をたんのうししていただけだろう。本国チェコスロヴァキアで記録的な大ヒットとなった「スイート・スイート・ビレッジ」は、モントリオール国際映画祭では審査員特別賞とエキューメニク賞をあわせて受賞。アメリカではアカデミー外国語映画賞にノミネート。シャムルツスのユーモア映画祭ではグランプリと国際映画批評家賞を一挙に受賞している。



■イジー・メンツェルの名は、28歳でつくった長篇第1作「厳重に監視された列車」がアカデミー外国語映画賞を受賞した68年に世界的に知れわたった。ミロス・フォアマンをはじめ、ヒテイロヴァー、ネメツツ、パッサーラ、チエコ・ヌーヴェル・ヴァーグの最も若い新人だった。しかし、自由を謳歌する「プラハの春」は「チェコ事件」でおしつぶされ、フォアマンはアメリカに亡命して「カッコの菓の上で」や「アマデウス」をつくり、メンツェルはチェコで映画をつくり続けたものの作品は国外にはとどまらなくなかった。

「スイート・スイート・ビレッジ」は80年代に入ってからメンツェル健在を鮮やかに告げて、いま世界中で絶賛を浴びている作品で、長篇第10作。

フランス映画社配給  
パウ・シリーズ作品 BOW

# スイート・スイート・ビレッジ

イジー・メンツェル監督作品  
Vesničko má středisková

■運転手バヴェクと助手オチクの朝は合図の口笛から始まる。でぶののっぽで合う筈のない足なみを合わせて、村のドクトルがいつものようにエンコさせている自動車を修理して仕事にむかうのが日課だ。バヴェクは口が悪いが、両親をなくしたオチクには父親のような存在。時にやさしくて、この朝もヘッドフォンをプレゼントしてくれたが、それがもとで次から次に事故また事故。腹にすえかねたバヴェクはオチクを見ずしてと宣言するが、プラハの公園から、オチクを名指しで採用したいとの不思議な手紙が舞いこんで、村人みんなが大騒動……。



【スタッフ】  
監督……………イジー・メンツェル  
脚本……………ズデニェク・スヴェラーク  
撮影……………ヤロミール・ショバル  
美術……………ズビニェク・フロフ  
音楽……………イジー・シュスト  
製作……………ヤン・シュステル  
パランドフ撮影所製作・チェコ映画・カラー(1×1.33)1時間42分  
●1986年モントリオール国際映画祭審査員特別賞  
●1987年アカデミー外国語映画賞ノミネート ●シャムルツス映画祭グランプリ

【キャスト】  
オチク……………ヤーノシュ・バーン  
バヴェク……………マリアン・ラプダ  
\*ドクトル\*スクルジュニー先生……………  
……………ドルドフ・フルシンスキー  
トウレク……………ペトル・チャベック  
ヤナ……………リブシェ・シャフランコヴァー

■脚本のスヴェラークをはじめ音楽のシュストまでスタッフはメンツェル映画の呼吸を知りつくす面々。ただひとり、反体制派のレットルをおされながらも現代チェコ文学を代表する小説家と目されるボフミル・フラバルの名がクレジットに欠けているが、メンツェルは、フラバル原作の小説を過去に5回映画化し、この映画の発想もフラバルからえた、と機会あるごとに言い続けている。

■キャストイングの見事なことメンツェル映画の特徴で、ユニークな個性ぞろい。オチクを演じるのは、撮影当初にはチェコ語をひと言も話せなかったハンガリー俳優のヤーノシュ・バーン。チェコとスロヴァキアが合わさってチェコスロヴァキア社会主義共和国の現在があるが、おちこぼれになりそうなオチクを我が事として思いはじめるスロヴァキア出身のバヴェクを演じるのは、実際にスロヴァキアで映画と舞台に活躍するマリアン・ラプダ。田園と詩を愛するドクトルには、名優フルシンスキー。浮気の人妻ヤナのシャフランコヴァーをはじめ、さらりと喜劇を演じられる、絶妙のキャストイングで、チェコ映画ならではの人なつこいコメディを展開する。



4月9日(土)より  
陽春ロードショー

日比谷シャンテ・合歓の広場前  
シャンテシネ1  
(591)1511

特別鑑賞券1200円発売中(当日一般1500円(の処) 大高生1300円)  
●特別鑑賞券は、劇場窓口の他、都立大学、早稲田大学、大生協、チケットぴあ、チケットセブン、チケットガイドで発売中です。  
●グループ鑑賞のお申込は、劇場(591)1511または(株)メイジャー(541)2508へ。  
\*シャンテ・シネ2 4月中旬G・Wロードショー/前売中  
'87年カンヌ国際映画祭最優秀監督賞受賞  
「ベルリン・天使の詩」(ウィム・ヴェンダース監督作品)  
(ドイツ映画・仏=西独合作)

●上映時間(連日) 11:50 1:55 4:00 6:05 8:10 終映10:00